

▼ホンバン錠 [内] ・▼ホンバン注 [注] <製造中止>

【重要度】 【一般製剤名】 ホスフェストロール fosfestrol 【分類】 前立腺癌治療剤

【単位】 ○100mg/錠、○250mg/管 (1管 5mL)

【常用量】 内服：300～1200mg/日、注射：1日 250～500mg/日

【用法】 内服：分3、注射：緩徐に静注。毎日 10～20 日間又は 1 週間に 3～4 回の割合で 1～2ヶ月投与。症状消退すれば 1 週間に 1～2 回に減ずる。

【透析患者への投与方法】 透析患者の投与方法に言及した文献ないが、おそらく減量の必要はないであろう (5)

【保存期腎不全患者への投与方法】 腎不全患者の投与方法に言及した文献ないが、おそらく減量の必要はないであろう (5)

【特徴】 抗アンドロゲン作用を有する非ステロイド系エストロゲン。前立腺癌の患者の前立腺でのアンドロゲンの蓄積は筋肉、脂肪組織の 3～4 倍も多いことが知られている。

【主な副作用・毒性】 血栓症、心筋梗塞、心不全、肝機能異常、高カルシウム血症、ナトリウム・体液の貯留、脂質代謝異常、めまい、頭痛、知覚異常、乳腺及び乳房腫脹、乳房痛、尿道狭窄、タンパク尿、肛門・陰部周囲の搔痒感・灼熱感・しびれ感、倦怠感

【F】 おそらく高い (5)

【代謝】 腸壁で活性体の E-diethylstilbestrol (ホンバンの成分は fosfestrol) に代謝される。そのグルクロン酸抱合体、硫酸抱合体、そしてグルクロン酸・硫酸両抱合体が血中に現れる (Arzneimittelforschung 38: 1502-1512,1988)

【排泄】 尿中にゆっくと 30～50%が回収され、グルクロン酸抱合体がその主体 (1)

【t1/2】 2 相性で 1hr と約 1 日 (J Urol 128: 1336-1339,1982)

【蛋白結合率】 データなし (1)

【Vd】 データなし (1) 前立腺に高率に移行 (1)

【MW】 428.31

【透析性】 データなし (1) 組織移行性が高いと思われ、効率的には除去されないと思われる (5)

【TDM のポイント】 一般的に TDM の対象にはならない

【備考】 多量投与により高カルシウム血症、Na や体液の貯留があらわれることがある。長期連用でまれに血栓症が起こることもある。

【更新日】 20120924

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。